

学校は、以下のような教育的効果を期待して指導の協力を依頼する。

【外部講師に期待する教育効果】

- ◎地域の現状や課題、最新の情報などを交えたわかりやすく具体的な説明が、経験や既習内容と関連させる児童生徒の思考を促し、理解の深まりにつながる
- ◎自身の経験を交えた健康やいのちの大切さなどについての積極的なメッセージが心に響く

指導に協力していただく際は、学校のがん教育に対する考えについて事前に説明を受け、学習のねらいや、以下の指導のポイントについて理解しておくことが重要である。

【指導のポイント】

- がんになる原因や種類、治療法など、基本的な知識について、「何を」、「どこまで」事前に学んでいるのか授業前に学校と打ち合わせを行い、内容を整理し、授業のねらいに合わせ、内容を精選するようにする。
- 体験談等を話す際は、授業前に学校と打ち合わせを行い、内容を整理し、児童生徒の発達の段階に応じた内容に合わせ、内容を精査するようにする。
- 写真や図などを用いたり、わかりやすい例を示したりする。
- 一方的に話し続けるのではなく、外部講師から質問したり、児童生徒からの質問に答えたりするなど、児童生徒が主体的に考えることができるようにする。
- 「がんの告知を受けたときの気持ち」や「治療中の支えになったこと」、「選択にあたって悩んだこと」など、具体的な場面や状況を示しながら投げかけを行い、児童生徒が考えたり、グループトークなどで話し合ったりできるようにする。
- 怖さを強調するのではなく、「自他の健康といのちの大切さを主体的に考えることができるようにすることが充実した人生につながる」という積極的なメッセージが含まれることなどを念頭に置くようにする。
- がんの治療などには、医療従事者や家族などの協力が大切であることに児童生徒が気付くことができるような内容にする。
- 授業の後に、児童生徒が希望をもち、前向きな気持ちになるような内容にすることを心掛ける。

※参考：がん教育における配慮事項ガイドライン（令和2年2月）

一般社団法人 全国がん患者団体連合会